

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0272200288		
法人名	医療法人慶成会		
事業所名	グループホームいわき		
所在地	〒036-1325 青森県弘前市大字一町田字村元711番地3		
自己評価作成日	令和3年8月1日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人青森県老人福祉協会		
所在地	〒030-0822 青森県青森市中央3丁目20番30号 県民福祉プラザ3階		
訪問調査日	令和3年9月8日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

岩木山を背に広大な自然に囲まれた環境の下、家庭的な雰囲気の中で一人一人の心身の状態に合わせたケアを行い、安心できる日常生活を送ることができる様に支援します。又、地域密着型という特性を生かし住み慣れた地域で今迄と変わりなく地域の行事に参加しながら地域住民との交流も大切に楽しみの有る日々を過ごして頂きます。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

経営者や管理者、職員は常に、入居者はもちろん、家族の意向、職員の話も聞きながら、より良いサービスに生かせる様に取り組まれているグループホームである。今はコロナ禍で出来ることが制限されている中でドライブ等の行事もあり外出する機会を設け、季節を感じられる様配慮している。また、地域の行事参加も少なくなる中、グループホームの広報誌を町内会長へ持参し、配布してもらい、地域方の理解も深めている。家族の面会についても市役所の指導のもと行っている。
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)		1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが			○	2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	管理者 介護支援専門員	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

公益社団法人青森県老人福祉協会

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念の共有に努める為、朝の申し送り時には、唱和し実践につなげる努力をしている。	目の届く所に地域密着型サービスの意義を踏まえた理念を掲示され、いつでも確認出来ている。毎日の朝礼時や会議の時間に職員みんなで理念について唱和されている。新職員にも分かりやすく説明し理解を得ている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域密着型サービスに位置付けられている意味を考え地域との関わりを密に図るよう に心がけていたが現在は、新型コロナウイルス 予防の観点から控えている現状がある。	地域とのつながりを大切にされており、今ま では地域の行事等に参加したりこちらの行事 にも声掛けし関りを持たれていたが、今はコ ロナの影響で自粛しており、出来る範囲での 交流は続けている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の 人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて 活かしている	運営推進会議やいわき夏祭りなど行事の時 には、認知症の理解のためにもご近所や地 域の老人クラブなどに参加を呼びかけてい たが、現在は、新型コロナウイルス予防の 観点から控えている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、 評価への取り組み状況等について報告や話し合 いを行い、そこでの意見をサービス向上に活か している	昨年度より新型コロナウイルス予防の観点 から、運営推進会議は、行われていない。	コロナ禍で現在は会議は行っていないが、今 まで参加していた方々に会議が中止している 間は報告書としてまとめ、送付されている。ま た、職員にも同じ用紙を確認してサインを 貰っている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所 の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝 えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	昨年度より新型コロナウイルス予防の観点 から分からないことは、行政に電話での対 応をして頂いている。	分からない事などは行政に電話で連絡をして いる。また、成年後見制度を利用してる方も おり、その説明等確認する機会を設けてい る。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サー ビス指定基準及び指定地域密着型介護予防サー ビス指定基準における禁止の対象となる具体的 な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含 めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	3カ月に1度は「身体拘束廃止委員会」を行 い職員の周知に努めている。又、付随して 内部研修を行いながら報告書の提出も行って いる。	3カ月に1回身体拘束についての勉強会を 行っている。今は外部の研修はないが、内部 で定期的に会議をし、みんなで身体拘束をし ないケアについて学ばれている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について 学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での 虐待が見過ごされることがないように注意を払い、 防止に努めている	新型コロナウイルス予防の観点から外部研 修の参加や計画ができず見通しが付かない 状況にあり、内部研修での計画をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	新型コロナウイルス予防の観点から外部研修の参加や計画ができず見通しが付かない状況にあり、内部研修での計画をしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前に見学に来ていただき、管理者より説明を行っており、ご家族や入居者様の疑問点に対応できるようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	毎月の支払日には、なるべく来設での支払いをお願いをしている。その際に、ご家族様の要望や意見を尋ねるようにし話やすい雰囲気作りを心掛けている。	毎月家族が利用料金の支払いに来る際に日頃の状況を伝え、家族の希望や要望を聞いている。また、面会は市役所の指導のもと、窓越しでの面会を行っていた。今後は感染対策をしながら家族との面会が出来るスペースを作る予定である。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	新型コロナウイルス予防の観点から、全員参加での会議を開催することができ無い為、会議前に全職員に議題の提供や意見を求めている。	管理者は普段から職員の話を聞きながらサービスの向上に向けて意見を取り入れている。また、毎月、経営者もグループホームに来られ職員一人ひとりと話をする機会を設けており、そこでも色々な意見や要望を聞いている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、給料日の出勤職員に対し個々との会話をしコミュニケーションを図るとともに意見を尋ねている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	今迄は、代表者より全面的に外部研修への参加費用の提供が行われていたが、新型コロナウイルス予防の観点から職員自身が集団での研修に参加することを否としている。その為、内部研修での取り組みをしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	新型コロナウイルス予防の観点から行われていないが今後は、どのようにするべきか検討したい。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	基本調査をもとにご本人様との面談を行い不安に思うことなどの把握に努めています。又、それらをサービス計画に反映させるよう考慮しています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	基本情報をもとにご家族様には、見学に来ていただき現状の把握と意見を傾聴しながら関係作りや信頼に結びつけることができるように努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	新型コロナウイルス予防の観点から施設内での面会は行われていないが、受診支援を希望されるご家族様には、その要望に応えている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人と一緒に家事仕事や軽作業を行うなど残存機能の維持、及び信頼関係の構築に努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナ禍に於いてご家族様とご本人様の交流は、ガラス越しや電話にて行われている。担当職員からは、毎月の状況報告が、コメントとして入ります。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居前にご本人様が通院していた病院は、入居後もそのまま受診できるように支援しています。	今まで利用していた病院を受診をしており、そこで馴染みの医師や看護師と会話したり、病院に知り合いが来てる時はそこで会話され交流を図られている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	毎日の軽作業を一緒に行い、気の合う入居者様同士、入浴の順番を考慮したり余暇活動の時間を利用して交流が深まるように橋渡しを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後もその後の経過を確認したり相談の為の声掛けをしてもらえる様に連絡を行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活状況、生活歴を参考にご本人様及びご家族様からの聞き取りを行い相談しながら生活に反映させている。	日々の生活の中で職員は入居者の思いや意向を聞くように心がけている。また、困難な時は家族やチームみんなで相談しながら行っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	基本情報やご本人様、ご家族様との面談に於いて経過の把握に努めたり担当居宅からの情報提供も確認している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々の心身の状態を観察し、ご本人様の「出来ること」を見つけ出し提供できるように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月のユニット会議では、職員からの意見を求めケアカンファレンスに生かしている。又、それを元にサービス計画を作成している。	介護計画はユニット会議の中で入居者の日々の様子を話し合い、それをもとにサービス計画書を作られている。また、担当者会議も行われており、状態が変わった時はサービスの見直しもされている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の取り組みや結果を介護日誌に記入しながら変化や変更のあった時には、申し送り簿に記入し情報の共有に努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人様やご家族様の意見を尊重しながらニーズに対応できるよう例えば、馴染みの美容院を希望の時には、送り迎えをするなど柔軟に対応している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	現在は、新型コロナウイルス予防の観点から行われていない。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人様、ご家族様の希望を大切に、かかりつけ医の受診を継続すると共に報告、連絡、相談を大切に信頼関係の構築に努めている。又、急変時の受診体制も整っている。	本人や家族が安心出来るよう今までのかかりつけ医の受診をされている。協力医とも連携がとれており、夜間でもいつでも相談できる様になっている。かかりつけ医受診が困難な時は協力医にいつでも変更が出来る体制になっている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職員一人一人が、入居者の状態把握に努め、細かな異変を見逃さないように観察、情報共有に努めかかりつけ医の元に相談を行い支持を仰いでいる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療機関には、情報の提供を行っている。又、地域連携室やソーシャルワーカーとの情報交換を密に行いそれをご家族様との今後の相談に生かしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時には、事業所の方針を明確に提示しており機能低下や状態の悪化が確認された時には、ご家族様と相談し他施設への待機者登録をするなどの対応を行っている。	入居前の契約時に入居者、家族に十分な説明をされており、グループホームでの生活が困難になった時は、次の事業所が決まるまで変わらず支援出来るよう対応されている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	夜間対応も含め、すべての職員が、急変時や事故の発生に備えた対応の仕方を把握している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	夜間想定も含め年2回以上の避難訓練を実施し全職員が、迅速に対応できるように日々話している。非常食や懐中電灯、灯油ストーブ、ラジオの備えも把握している。非常食は、3日分確保されている。	年2回訓練を行っており、非常食等の準備もされている。以前は地域の方の参加もあったが、現在はコロナの影響でグループホームだけの訓練になっている。	今後は少しずつ災害についての訓練を増やす計画をされていたので、火災以外にも地震や水害等を想定した訓練を行う事で職員が迅速に対応出来る事を期待したい。

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	訪室の際には、ノックを行いプライバシーに配慮している。時間でのトイレ誘導を行っている入居者様には、声のトーンを下げて目線を合わせながら声がけ対応を行っている。	プライバシーについて内部研修を行い、職員は対応に気を付けている。新人にもプライバシーについての説明もされ、入居者一人ひとりの対応についても説明されている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入浴後の衣服決定のできない方に必要な物品の提示を行いゆっくりと準備をして頂くように努めている。その日の水分補給の際は、いくつかの好みの選択肢を設け好みの飲み物を提供している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入浴後の衣服の準備は、入居者様1人1人に合わせて前日に準備する方、当日に準備する方など職員ベースではなく入居者様ベースとしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	受診時などには、利用者様の洋服選びに相談に乗り季節にあった服や巾着などをアドバイスしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	簡単な下ごしらえを一緒に行ったり、食器拭きは、その日の心身の状況を判断しながら交代で行っている。又、嫌いな食品や禁止食品に関しては職員が情報共有に努め提供している。	季節にあった食材を使い、楽しく食事が出来るように支援されている。また、一緒にお手伝いできる方には準備なども行ってもらっている。管理栄養士がいないが、今後市役所に栄養指導について相談する準備がされている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1人1人の状態の把握に努め、体重管理の指示が出た入居者様は、提供する食事量を工夫をしている。又、食事量の少ない入居者様には、主治医への情報提供を行い指示を仰いでいる。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	各々の能力に合わせた声がけを行う。自力で行える人、洗面台に誘導することで行える人、義歯を外せる人、うがいが行える人などその人に合わせた支援としている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	尿意の訴えの無い方は、日中に時間誘導を行い夜間も排泄のパターンを確認しながらトイレ誘導を行っている。	排泄チェック表を使用され、その人の排泄パターンを把握し、定時の誘導を行っている。排便がなかなかない人は医師との相談もされている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便チェック表の活用と職員からの申し送りにより各々に合わせた下剤服用の対応を行いながら、水分補給の充実、軽体操への参加を促している。また、主治医への相談を行い指示を受けている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた支援をしている	週2回のユニット毎の入浴だが、受診日と重なった時や都合の合わない時には、ユニットを超えて入浴を行う。又、気の合う入居者様と一緒に入浴とするなど臨機応変としている。	週二回の入浴日以外でも臨機応変に対応されている。また、入浴できない時は体の清拭や足浴や臀部のみ洗うなど、清潔保持に努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	1人1人の生活習慣や状態を把握し午睡の時間や入眠時の時刻を工夫したり声がけすることによって夜間の良眠につなげている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	各々の服薬状況は、基本情報台帳に1年分を綴込みしており常に職員が閲覧できるようにしている。受診時に変更の合った薬に関しては、各々の受診記録に記入するとともに申し送り帳に記入するようにして職員は確認印を押している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴から、本人の趣味や能力を生かせるように日常生活に工夫をしている。生活歴に和裁のある方には、雑巾を縫っていただいたり洋裁のある方には、外れたボタン付けを行っている。ドライブの好きな方は、気分転換に出掛けている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	新型コロナウイルス予防の観点から自粛をお願いしている現状にあるが、どうしてもという方には、ご家族様とも相談し支援に努めている。例えば美容院でパーマをかけたいという希望を叶える事に至った経緯もある。	行事として家族とのドライブ等は、今はコロナ禍のため自粛してるが、出来る範囲でのドライブを行ったりし、みんなが外出できるように支援されている。今後も出来るだけ気分転換を図れる活動を継続しようと考えている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人様の状態やご家族様のご希望により所持している方もいますが、現在は、新型コロナウイルス予防の観点からご本人様の外出までは至っていません。お預かりしているお小遣いからの購入となっています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	外線での電話連絡には、取次ぎを行っている。又、当施設からの事務連絡時には、ご本人様との会話を行っていただけるように声がけを行っています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	余暇活動での季節に合った絵(花、生き物、ねふた、折り紙、下がり物)や作品を各々の氏名を記入していただきサロンや廊下、居室に展示をして足を留めて頂けるよう工夫をしている。テレビやビデオは、各サロンに配置しユニットを超えて見る事が出来るように声がけを行っています。	ホールには季節にあったものを飾ったり、自分たちで作った物を展示されている。また、暗い時は照明を付けたりし、みんなが楽しくテレビを見たり、レクリエーション活動が出来る様な空間を提供されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	サロンのソファは、各々が好きな位置に好きな時間に座り過ごされています。又、第二サロンにも椅子やテーブルが用意され自由に使う事が出来る。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所前に使用していた家具や備品を持参されたり又、ご家族様の位牌を毎日拝んでいる方もいます。家族を忘れないで欲しいからと送ってくれた写真は、居室内に貼ったりするなどご本人様やご家族様の想いを大切にしています。	入居前に自宅で使い馴染んだ物を持参したり、安心して生活出来る様にしている。家族の写真など居室に貼って、心が癒される様に配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自室入口には、氏名を掲示しトイレには「トイレ」と表示し混乱を防いでいます。施設内には、手すりの設置を行い歩行の安全につなげています。シルバーカーの利用者には、停車する位置を確保しています。		